

東京大学世界史の勉強

以前ある学生から、次の問題についての添削を依頼されました。この問題は、皆さん知っている問題でしょう。では、この問題のオリジナルは知っているでしょうか？

【2015年 第1問】

近年、13～14世紀を「モンゴル時代」ととらえる見方が提唱されている。それは、「大航海時代」に先立つこの時代に、モンゴル帝国がユーラシア大陸の大半を統合したことによって、広域にわたる交通・商業ネットワークが形成され、人・モノ・カネ・情報がさかんに行きかうようになったことを重視した考え方である。そのような広域交流は、帝国の領域をこえて南シナ海・インド洋や地中海方面にも広がり、西アジア・北アフリカやヨーロッパまでをも結びつけた。

以上のことを踏まえて、この時代に、東は日本列島から西はヨーロッパにいたる広域において見られた交流の諸相について、経済的および文化的(宗教を含む)側面に焦点を当てて論じなさい。解答は、解答欄(イ)に20行以内で記述し、必ず次の8つの語句を一度は用いて、その語句に下線を付しなさい。なお、()で並記した語句は、どちらを用いてもよい。

ジャムチ	授時暦	染付(染付磁器)	ダウ船	東方貿易
博多	ペスト(黒死病)	モンテ=コルヴィノ		

【オリジナル問題（1994年 第1問）】

13世紀は「モンゴルの世紀」と呼ばれる。チンギス・ハーンが、モンゴル高原を統一してモンゴル帝国を築くと、続いて各ハーンが度重なる征服戦争をおこなった。彼らは中国を支配したばかりでなく、朝鮮半島、東南アジアまで勢力を伸ばし、さらに中東イスラム世界、ロシア・東欧にいたる大帝國をつくりあげた。

マルコ・ポーロは、「東方見聞録」の中で、この帝国の多様な性格について、次のように述べている。

フビライ・ハーンは11月にカンバルック（大都）に帰還し、そのまま2～3月の候までそこに逗留している間に、われわれの復活祭の季節がめぐって来た。……彼は盛大な儀式を催して自ら何回も福音書に焼香した後、敬虔な態度で吻（くちさき）を、これに当て、かつ居並ぶすべての重臣・貴族にも命じて彼にならわしめた。この儀式はクリスマス・復活祭といったようなキリスト教徒の主要祭典に際してはいつも挙行される例であった。しかしハーンはイスラム教徒・偶像教徒（仏教徒）・ユダヤ教徒の主要聖節にも、やはり同様に振る舞うのだった。

このモンゴル帝国の各地域への拡大過程とそこにみられた衝突と融合について、宗教・民族・文化などに注目しながら論ぜよ。解答は、下に示した語句を一度は用いて、解答欄(イ)に20行（1行30字）以内（600字）で記せ。また使用した語句には下線を付せ。

ガザン・ハーン、	色目人、	バトウ、	大理国、	駅伝制、
モンテ・コルヴィノ、	細密画、	マジャパイト王国、	授時暦	

さて、それでは、1994年の問題の元になった問題は何でしょうか？

【原型問題（1981年第1問）】

9～10世紀における西ヨーロッパ、東ローマ帝国、イスラム世界は、それぞれどのような特色をもっていたか、互いに対比しながら、下記の語句を少なくとも1回は使って、600字以内に述べよ。なお、下記の語句を最初に用いたときに、下線を付け。

コルドバ バグダード スラヴ族への布教 外民族の侵入 農耕社会への移行
古典荘園 ムスリム商人 ギリシア語文献の翻訳 コンスタンティノープル 都市文明

《解説》

① 1994年問題の出題の背景

オリジナル問題（1994年）が出題された年に、この問題について大手予備校では、「東京大学にはモンゴル史の専門家がないのに、モンゴル史の問題を出題するのは無責任である」といった趣旨の評がだされました。全く正しい意見です。オリジナル問題のテーマは「パクス・タタリカ（モンゴルの平和）」ですが、この問題は「イスラム史」の問題だからです。

出題者は、山内昌之名誉教授（現）で、ご専門は中東・イスラム史です。この問題の出題の経緯は、2001年のニューヨークの貿易センタービルでの同時多発テロ（9. 11）に深い関係があります。

山内助教授（当時）は、1992年から1年間、ハーバード大学で客員研究員を務めています。その際に、1993年ハーバード大学でハンチントン教授が出した『文明の衝突』という論文に触発されたのです。ハンチントン教授の説は、「資本主義と共産主義という政治経済イデオロギーの対立が終わった後には、西欧・中華・ヒンドゥー・日本・イスラム・アフリカ・ラテンアメリカ・東方正教会などの文明圏の接触線で紛争が多発するだろう、特に、衝突の可能性が高いのは、中華文明・イスラム文明と西洋文明の間で、ここでは紛争が生じる可能性が高い。」としました。

山内昌之先生は、1993年に東京大学に帰任すると教授に昇進し、この問題を出題します。1993年に帰任して作問したので、1994年の入試問題になりました。教授の出題の意図は「文明は衝突することで、破壊だけではなく新たな創造を行う。イスラム文明が短期間に高度な文明となったことは、衝突と融合の所産だ」というものです。尚、山内教授は、この問題では「ペスト」という指定語句を用いていませんが、焼き直し問題に出てくる「ペスト」は、山内教授が、受験生には難しいだろうと考えて除外した指定語句でしょう。

山内名誉教授は、北海道大学出身の方ですから、東京大学の世界史の問題については経験がありません。そこで、参考にしたのが、1981年の三者比較問題です。この問題は、歴代の世界史の中でも最も難しい問題です。この問題を出題したのは、木村尚三郎名誉教授（故人）です。木村先生は、西欧中世史、特にフランス史の専門家です。先生の卓越した着眼は、現在の主要な文明圏の確立にはイスラム文明が関与している部分が大いという点にあります。木村先生は、この点を考えて、山内先生を東大に招いた中心人物で

した。山内先生が、初めての作問をするにあたり参照したのが、この木村先生の作問になる81年の三者比較であったでしょう。

この問題を下敷きにしながら、山内先生が主張したかったのは、「イスラム文明がなければ、世界の一体化はなかった」ということです。それを史実を踏まえて論述するという問題です。この問題自体は非常に簡単なもので、教科書の記述の通りに書いてゆけばよいだけです。81年の問題とは、全く、格が違います。それだけに、出題の意図が見えにくくなってしまったと思います。また、出題の意図を取り違えた回答者が多かったため、期待されたような答案は少なかったであろうことが容易に推測できます。

② 2015年問題の出題の背景

2015年の出題は、おそらく羽田正東洋文化研究所教授（現副学長）が中心的な作問者ではないかと考えます。2014年11月10日にAPEC会議で習近平主席が「一路一帯（拼音: Yīdài yīlù）政策」を正式提唱したことを受けて、この問題を正式に出題することになったものでしょう。作問の着想自体は2013年にあったものと思います。正式提唱を受けて、いくつかの候補からこの問題が最終稿に選定されたものでしょう。

モンゴルによる世界の一体化の後に、ユーラシア大陸に、同等規模の支配領域を有する国家主体は出現していません。その理由は、物流が陸上輸送から海上輸送へ、更には航空輸送へと切り替わったという事情があります。しかし、中国の莫大なエネルギー需要を賄うための原油輸送は、現在は米国の支配する海上輸送ルートに依存しています。この状態を改善するためには、中国は中央アジアの陸上輸送の状況を改善する必要があります。これが一路一帯政策の目的ですし、その際に問題となるのは、中華文明とイスラム文明の衝突の問題です。

2015年問題の画期的なところは、「国家」という領域的な枠組みと人々の活動の範囲は一致しないことを指摘し、国境を越えた人の動きという事実を捉えようとした点であると言えます。

③ 指定語句「ペスト」の使い方

ある有名進学校の生徒さんが作成した答案で「ペスト」の使い方が間違っていましたので、説明しておきます。「ペストの流行は大規模な人の移動を示す」ではありません。現代では、人が大規模に移動していますが、ペストの流行はありません。山内教授の想定していた答えは、「モンゴルでは降水量が少ないため、大型の草食動物が育たない。モンゴル人は蛋白質を摂取するためタルバガンを食べる（『東方見聞録』に記載されている）。このタルバガン（齧歯類）はペスト菌の保菌者であり、モンゴル人を介して人一人感染で14世紀の大流行となった」です。この生徒さんは「雲南から拡大したと教わった」と言っておられましたが、雲南のペスト菌の株と14世紀の欧州で流行した株は異なる亜種であることがDNA調査でも示されています。

ペストの大流行がモンゴル人の活動時期と重なっているのはどうしてか、ということが出題者が問いたいことでした。山内先生は、実際には、受験生には難し過ぎるだろうということで「ペスト」という指定語句を使わなかったのですが、それが2015年の焼き直しでは出題されたというわけでした。

《東大世界史の勉強方法》

東大では、多数の専門家がおり、それぞれの時代と地域について出題を行うことができますし、採点することも可能です。実は、国立大学であっても、これだけの規模を有している大学は、他にありません。それだけに、問題の作り方、採点の仕方などに関して、他の大学がやりたくてもできないような、優れた内容の作問がなされます。そして、入学試験の問題は、教授が作成し、採点しますので、「東大で勉強する学生には、こういうことを求めたい。こういうことが理解できる学生に自分の研究を継承して貰いたい」という教授からの直接指導の場になっています。

東大向けの勉強をするためには、一般の受験参考書や予備校などの問題ではなくて、過去の入学試験問題を一生懸命に研究することが重要です。非常に、時間とお金をかけて作られた優れた過去問を通じて、教授からの指導を受けることこそが、最も正しい勉強の道であると考えて下さい。

追記

添削をした学生の方とペストの西欧での流行の原因について御話し致しました。その方は、中国雲南省にペストの源泉があり、それがモンゴル軍によって西欧にもたらされたと学校の先生から教わったとのこと。私は、モンゴル人が地ネズミを食用にすることから生じたものと、出題者の山内教授が解説していることを説明致しました。

その後、疫学的にどうかと調べました。以下の記事（年表は矢野）によると、株が異なるということで、学校の先生のご意見は、否定された形です。学校の先生は、wikipediaを、wikipediaは、誰とかの説を、根拠にしております。その誰とかさんは、疫学者ではなく歴史学者ですので、単なる憶測で書いたものと考えて良いでしょう。

欧州の流行は、コンスタンティノープルから拡大しており、東方貿易のルートです。南宋滅亡後、モンゴル軍は各地を転戦しているのですが、その間に交戦地域でペストが拡大したのであれば、モンゴル軍が原因と言えますが、そういう事実は見つかりません。時間的なズレが大きい点からは、モンゴル軍が雲南から拡大させたとする説には、潜伏期間・発症などの標準経過の点からも疑わしいと考えます。

というようにして、「自分で考える」ことが重要なのであります。